



萩野 幸弘 議員
(躍進とおの)

一問一答方式

その他の質問

- 地方創生に係る連携協定について

都市機能集約化の動きに 対する本市の見解を問う

問……………

国が地方における都市機能の集約化を後押しする方針を打ち出したが、本市の見解は。

答(市長)……………

国の都市再生整備計画事業には①通常事業と②都市再構築戦略事業の2つの補助事業があり、今回取り組みを強化したのは②である。②の対象地区は市

町村の都市計画区内であり、人口集中地区要件(1平方キロメートル以内)に4千人以上と交通要件(鉄道・バス)のピーク時の運行本数片道3本以上)の2つの要件があるが、本市は両方の要件を満たすことができず、これまで①を選択して国庫補助率40%を得てまちなか再生の事業を進めてきた。

問……………

都市機能を集約させれば利便性等が向上するが、豊かな自然や田園風景といった遠野らしさを否定することにも繋がりがかねない。市長の見解は。



都市機能維持と自然景観の両立が今後の課題

答(市長)……………

本市ではカントリーパーク構想に基づき地区センターを拠点とした地域づくりに取り組んできた歴史がある。地域によってはまち機能の集約化を進めながらも地区センターを中心とした「小さな拠点づくり」とバランスをとりながら知恵を出し、市民合意のもとで進めていきたい。

工業団地整備と 人材不足解消対 策は同時進行で

問……………

本市は現在、全産業で人材不足が深刻化している。遠野東工業団地の拡張整備事業と人材不足解消対策は同時進行しなければ意味がないのでは。

答(市長)……………

雇用対策は、これまでも試行錯誤しながら取り組んできた。その経緯を踏まえつつ、高速交通網の整備に伴う物流環境の変化に対応しながら、企業が人を呼ぶのを待つのではなく、家賃補助などの財源を工面しながら、積

極的な取り組みを進めたい。

問……………

民間資本を活用し遠野東工業団地周辺をベッドタウンとして整備してはどうか。

答(市長)……………

ご指摘のとおり民間活力で事業展開することが一番の理想だ。今後もスピードと即効性を意識しながら取り組む。

文化の 継承・創造を

問……………

多くの人達の関わりが必要である。遠野の文化に興味を抱くきっかけとして、妖怪を活用しては。

答(市長)……………

有効な戦略の一つであり、遠野らしさを基本としたコンテンツ開発を積極的に行っていく必要がある。

問……………

郷土芸能団体の自主的な活動への支援、芸能披露の機会の拡大等、取り組みの拡充を。

答(市長)……………

団体の思いを受け止め、地域資源として磨きをかけることが大事である。新たな仕組みづくりにも取り組みたい。

誰一人取り残さない 遠野市をめざして

問……………

手話奉仕員の養成講座、※読み書き支援や※優しい日本語での会話を学ぶ講習会を開催して、人材の養成を。

※読み書き支援(代読・代筆する日常的な支援※優しい日本語(難しい単語や尊敬語・謙譲語を避けた簡単な日本語)

答(市長)……………

市民が安心・安全に投票できる投票所の環境整備は、常に取り組むべき課題である。※コミュニケーションボードの配備について検討する。また職員研修の機会を捉え、配慮が必要な方への接遇対応の向上に努める。

問……………

共生社会の実現を目指すうえで、意思疎通支援の充実が重要である。前向きに検討したい。

問……………

誰でも投票できる環境整備の推進を。

問……………

※コミュニケーションボード(投票の仕方や疑問に思う質問例と回答がイラスト付きで紹介され、意思疎通に活用する。)

問……………

※LGBTについて、理解促進の取り組みを。 ※LGBT(性的少数者)心と体の性が一致しない人々のこと。

答(市長)……………

人権擁護委員協議会とも連携を図りながら、きめ細やかに取り組む。男女共同参画基本計画への明記について、社会情勢を勘案しながら検討を進める。

問……………

LGBTの児童生徒への配慮は。

答(教育長)……………

正しく理解すること、は、思春期を迎える子ども達が差別や偏見を無くすことに繋がる。子ども達の発達段階にあわせて、適切な対応を行いたい。

問……………

※SDGsの掲げる目標を取り入れつつ、さらなるESD教育の

推進を。

※SDGs(2030年を期限とする国際社会全体の持続可能な開発目標。17の目標と169項目の達成基準。「誰一人取り残さない」が基本理念。)

答(教育長)……………

SDGsが目標として掲げている気候変動や生物多様性、人権など学んでいる。また、持続可能な社会の創り手を育む教育であるESDの授業を、遠野ユネスコ協会の協力により実施しており、これまで以上に関係機関・団体の協力を得て取り組みを進める。



小林 立栄 議員
(無会派)

一問一答方式



援助や配慮が必要なことを知らせる「ヘルプマーク」「おねがいカード」